

○註。士也罔極二三其德。傳。帷裳。婦人之車。故也。中略。箋。中略。正義曰。傳以大夫之車立乘。有蓋無帷裳。此言帷裳者。婦

安車。皆有容蓋。鄭司農云。謂車。山東謂之裳。或曰童容。以幃障車之傍。如裳。以爲容飾。故或謂之幃裳。或謂之童容。其上有蓋。四傍垂而下。謂之襜。一

〔愚管抄〕五月○平治 廿五日丑の時に六波羅へ行幸。○二をなしてけり。その様は清盛尹明に

こまかにおしへけり。晝より女房の出んずる料の車とおぼしくて。牛飼ばかりにて。下簾の車を
まいらせて。○下

〔源平盛衰記〕三資盛乘會狼籍事

同應○嘉二年七月三日。法勝寺へ御幸アリケレバ。當時ノ攝籙基房公殿號松參給ケリ。還御ノ後。殿下

三條京極ヲ過給ケルニ。三條面ニ女房ノ車アリ。夕陽ノ影ニ。車ノ中透テ曇ナク見エ透。烏帽子著

タル者ノ乗タリケリ。居飼御厩舍人等車ヨリ下ベキ由責ケルニ。聞入ズシテヤリ過サントシケ

ルヲ。狼籍也トテ。前ノ簾并ニ下スダレヲ切落タリケルニ。葛ノ袴ヲ著タル男アリ。車ヲ馳テ逃ケ

ルヲ。追懸テ散々ニ打ケリ。

〔玉海〕文治五年八月廿二日己酉。此日下向南都。余○藤原兼實冠直衣京出入時皆同。庇車依遠所不懸下簾故實也。

〔明月記〕承元二年正月三日。今夕有女院御幸。○中博陸御車寄進笏ヲ懷中。下御簾左簾ヲ取具。天寒

給入御。

物見簾

〔蛙抄〕車輿半蔀車

同見○物簾 青編系大臣一枚ニ四所各二筋。青地錦縁大臣一枚ニ中ニ一筋。左右端相合五筋也。

帽額也。異子板畫。攝關家納言大臣無差別。

〔西園寺家車圖〕納言大將半蔀車

一物見簾編系并裏縁等如先青地錦縁小。

車屏風

〔河村誓真聞書〕一車にめす時。車屏風とて。くるまの内にたち候。女房衆の時。如此歟。